令和7年度 園だより

こうきた 7月号

杉並区立高円寺北子供園

『ぞうぐみランド』は『夢の国』

園 長　川嶋　佳恵

朝からどんより曇ったり、激しい雨が降ったり、暑い日差しが出たり…梅雨ならではの気候の中、高円寺北子供園ではプール開きがあり、各学年ともにプールでの活動も始まりました。夏の日差しが出た日には、「今日は、プールに入れる？」と担任に声を掛け、入れることが分かると『やったぁ！』と大喜びする様子が見られます。水遊びやプール活動は、夏ならではの活動なので、安全には十分配慮しながら思う存分に水に親しめるようにしていきます。

さて、6月の半ば、高円寺北子供園では、年長組主催の『ぞうぐみランド』が行われました。うさぎ組やくま組の子どもたちをお客さんとして迎え、年長児が考えた6店舗（乗り物の「スカイバスケット」・「ティーカップ」・レストラン・パン屋・水族館・動物ふれあいコーナー）を自由に回って、乗り物に乗ったり、様々なお店でその場その場の動きを楽しんだりしました。1 学期開催の『ぞうぐみランド』は、年長と言ってもまだまだ未熟なところがあったり、友達と協力することがスムーズではないところはあったりしますが、年長児一人ひとりが、これまで培ってきた様々な力を発揮して輝いている姿を目の当たりにすることができ、参加したすべての子どもたちが心から「すごい。」「おもしろい。」「楽しい。」と大満足するとても素敵な行事です。今年も年長児の自信に満ちた笑顔と年少児、年中児のニコニコ笑顔が輝いた素晴らしい『ぞうぐみランド』になりました。

某〇〇ランドを『夢のように楽しい、素敵なところ』という意味で『夢の国』と表現することがありますが、私から見ると、『ぞうぐみランド』も、子どもたちの思いやアイディアがぎっしり詰まっていて、かけがえのない楽しい時間を過ごすことのできる『夢の国』だなぁと思います。でも、それは、『ぞうぐみランド』当日のお店のでき栄えが素敵だったとかお客さんたちがとても喜んで満足してくれたからだけではありません。当日を迎えるまでに、どんなお店にするのか、どのお店の人になろうか、お店の運営の仕方はどうしようか、商品はどんな素材を使って作ろうか、どのくらいの量を作ればいいか、接客方法はどうするか、当日の係分担はどうするか等たくさんの仲間同士の話し合いと、これまで様々な遊びや活動で培った力、例えば、想像力、イメージを具現化する力、適した素材や材料を選ぶ力、構成力、道具（もの）を目的的に扱う力、他者と関わる力、社会性等を基に、同じお店の友達と一緒に出し合ったアイディアを形にしていく過程がとても素晴らしいのです。担任も、子どもたちのアイディアや思いを受けて、ヒントを出したり、それらを実現するための援助はしますが、ほとんどの取り組みは、子どもたちが中心に考え、自分たちで進めていきます。こういう自発的に物事を進めたり、イメージを形にしたり、友達と協力して何かを成し遂げる力は、昨日、今日、教えられたからといって、身に付く力ではありません。年少や年中で入園した時からずっと、自ら取り組む好きな遊びの中で、工夫したり、試行錯誤しながら、また、友達と一緒にあれこれ言い合ったり、喧嘩をしたり、思い通りにいかなかったりしながら…そして、友達と一緒にやり遂げた喜びや満足感を感じた経験をしながら等、様々な感情体験や活動経験を繰り返す中で、身に付いたものです。目に見えて計ることができる力ばかりではないので、分かりにくいかもしれませんが、確実に身に付いてきているからこそ、楽しい『ぞうぐみランド』が実現したのです。

そして、園生活以外にもう一つ、この活動を支えているものがあります。それは、子どもたちの日常生活です。保護者の方との何気ないやり取りや日々行っている生活行動、一緒に体験したことが、ごっこ遊びをより豊かにしています。例えば、モルモットや動物のふれあいコーナーでは、手洗い場が作ってあり、触れ合った後は、「こちらで手を洗ってください。」と誘導し、手を洗えるようになっていました。水族館のブースでは、定期的に水槽の内側から掃除をする様子が見えるようになっていて、その姿を見ることも楽しめるようになっていました。「スカイバスケット」や「ティーカップ」の乗り物コーナーでは、スリリングな乗り心地はもちろん楽しいのですが、入り口のところにある段ボールで作った券売機で券を購入することになっていて、必要枚数のボタンを押すと同時に大きな声で「〇枚ください。」と言うと、小さな穴から、必要枚数の券が出てくる仕組み（中に係の幼児が入っています。とてもアナログですが…子どもたちが考えました。）になっており、乗り物に乗る度に購入することも楽しめるように工夫していました。レストランではそれぞれが行ったことのある食べ物屋さんでの経験が生かされたメニューが並び、注文して食べているとサービスに飴をもらえました。パン屋さんは、トレーに自分の好きなパンを選んでのせ、清算する方式です。ふわふわにこだわったパンの生地の中身は綿を使用し、こねてから包むというこだわりようです。このように、身近な経験と子供園で得た経験から広がったイメージやこれまで培ってきた力が合わさって、豊かなごっこ遊びが展開されたのです。私は、園長という立場になり、よく「幼児期にお家でやっておいた方がいいことは何ですか？」と聞かれます。幼児期にご家庭で大事にしてほしいことは、何気ない家庭生活でのやり取りや日常生活の動作一つ一つかもしれません。もちろん特別な活動をする経験は生活に潤いを与えますが、それ以上に日常生活のあれこれを丁寧に経験することは、心を豊かにし、子どもたちの様々なことに対する価値観や創造力、豊かな想像力等を形成しているのです。そう考えると、今の日常生活を大切にしたくなりますね。

年長の子どもたちにとって、『ぞうぐみランド』運営側としての年下の子どもたちへのおもてなしは、大人が思うよりもずっと大変だったと思いますが、「みんなでできて、楽しかった。」「また、やりたい！」「うさぎ組やくま組のお客さんが喜んでくれて大成功だった。」と目を輝かせながら様々な感想を言い、達成感や満足感を感じている様子でした。

この『ぞうぐみランド』をやり遂げた経験はさらに今後の年長児の子どもたちの自信と生きる力につながっていくことでしょう。そして、このように素敵な年長さんを先輩にもつ年中、年少の子どもたちは、『ぞうぐみランド』をお客さんとして参加したことが、喜びや感動の経験として生かされながら、好きな遊びや活動の中で様々な力を身に付けていき、来年、再来年の今頃は、『ぞうぐみランド』の主催者として、自信に満ち溢れ、輝いていることでしょう。

≪今月の指導≫

★3歳児　うさぎ組

空き箱や形の紙、くるくる棒などいろいろな素材を組み合わせ、偶然できたものを何かに見立てて遊ぶことが楽しくなってきました。また、水遊び・プール活動が始まり、水の冷たさや気持ちよさを感じています。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

●好きな遊びに繰り返し取り組み、自分なりに楽しさを感じる。

●保育者や周りの幼児とふれあい、一緒に過ごすことを楽しむ。

●着替えや身支度など自分のできることを自分でやってみようとする。

みんなと一緒にプールや水遊びをして、伸び伸びと楽しめるようにしていきます。また、水着の着替えなど自分で出来ることはやってみようとし、スモールステップで「できた！」を積み重ねていけるようにします。

★4歳児　くま組

プール遊び・水遊びが始まりました。プール遊びではカエルやワニになって歩いたり、宝探しをしたりして水の中でできる遊びを楽しんでいます。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

●水に触れる夏ならではの遊びを十分に楽しむ。

●保育者や友達と関わる中で、自分の思いを言葉で伝える。

●栽培物の生長に関心をもち、収穫することを楽しみにする。

学級で栽培しているパプリカやナスの実がなってきています。水やりなど世話をしながら興味をもてるようにしていきます。プール活動に楽しく参加できることで、着替えも早くなってきました。着脱の仕方や畳み方も伝えながら、自分でやってみようと思えるように援助していきます。

★5歳児　ぞう組

『ぞうぐみらんど』を経験し、同じ遊びを楽しむ友達と考えを出し合いながら遊ぶ姿が増え、様々な友達とのつながりが生まれています。まだ、互いの思いの行き違いも見られるので、子どもたちのやり取りを見守りながら思いを伝い合えるよう援助していきます。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

●自分の思いを出したり友達の思いを受け入れたりしながら遊ぶことを楽しむ。

●栽培物の生長を楽しみにし、収穫したり調理したりして味わう喜びを感じる。

●水の中で動く心地よさを感じ、自分のめあてに向かって挑戦しようとする。

栽培物の花から実になる様子や葉っぱの手触りなど気付いたことを伝えあったり、調理したものを味わったりして、収穫する喜びを感じられるようにします。プール活動では、ビート板やフープくぐりなど自分なりのめあてに挑戦できるようにしていきます。